

第 69 回
関西社会学会大会
プログラム

第 1 日 2018 年 6 月 2 日 (土)

第 2 日 2018 年 6 月 3 日 (日)

開催校
松山大学

一般研究報告 A（部会口頭報告）の報告者の方へ、開催校からお願い

- ・報告者は部会開始時間の 5 分前までに会場に集合して、司会者と打ち合わせをしてください。
- ・1 報告あたりの報告時間は 25 分です。
- ・会場では配布資料のコピーサービスはできませんので、報告者は 50 部程度ご用意ください。
- ・報告申込の際に情報機器の使用を希望した報告者の会場には、プロジェクタ他の当該機器が備えられています。パソコンはご自身で持参してください。（ただし開催校でも部会の部屋ごとに WINDOWS 8.1 及び Windows10 のノートパソコンを用意します。ご利用の場合は USB メモリなどを持参してください。）プロジェクタとパソコンを接続するケーブルは備わっています。Mac をご利用の場合はアダプタもお持ち下さい。
- ・機器や接続には故障や不具合が生じる場合があります。万一に備え、機器なしでも滞りなく発表できるようにご準備ください。機器を利用する方は、部会の始まる **20分前**に報告教室にお集まりいただき、その教室で機器が正常に作動するかを確認してください。
- ・大会奨励賞受賞者は、大会第 2 日（6 月 3 日）のシンポジウム終了後、シンポジウム会場（8 号館 845 教室）で発表します。

一般研究報告 B（ポスター報告）の報告者の方へ、開催校からお願い

- ・ポスターセッションの会場は、8 号館 5階851教室です。
- ・部会開始時間の 5 分前までに会場に集合して、監督者と打ち合わせをしてください。
- ・報告時間は 1 時間 30 分です。時間中は基本的にポスターの前において、質疑応答を行ってください。やむを得ない事情でポスターから長時間離れる場合は、かならず監督者にその旨を伝えてください。
- ・配布資料はご自身でご用意ください。
- ・その他部会の進行については、監督者の指示にしたがってください。

※大会の直前に病気や事故等やむを得ない事情で、発表をキャンセルする場合は、以下の開催校メールアドレスにメールするか、あるいは、緊急連絡用電話番号に連絡してください。

ksa69.matsuyama（アットマーク）gmail.com 緊急時電話番号 070-5512-7817

<参加費用>

大会参加費： 2,000 円
懇親会費： 5,000 円（一般）、3,000 円（学生）

大会期間中の託児室のご案内

大会期間中、松山大学 8 号館 3 階西側学生ロビーに託児室を設置します。託児業務は、松山大学と育児支援協定を結んでいる保育事業所に委託します。

利用料は、お子さまお一人につき 1 時間あたり 1,000 円です。学会開催校から補助を行って、そのうえで利用者が 1 時間につき 1000 円利用料をご負担いただきます。学会員以外の方もご利用になれます。

利用時間：6 月 2 日（土） 13:00～18:00

6 月 3 日（日） 9:00～17:00

※2 日目の昼食は、保護者の方が引き取って一緒にお取り頂くようお願いいたします。昼食引き取り時間は各自、設定してください（昼食時の利用料金はかかりません）。

利用料金：お子さまお一人につき 1 時間あたり 1,000 円

対象年齢：0 歳児から未就学児まで

※万が一の場合の保険については、大会実行委員会がイベント保険をかけています。

申し込み方法

託児室の利用を希望される方は、①から⑤までの項目を必ずすべてご記入のうえ、5 月 25 日（金）17:00 までに、下記のアドレスまでお申し込みください。

①保護者氏名

②託児室を利用されるお子さまの人数

③お子さまのお名前、年齢・月齢、性別（お 2 人以上の場合は全てのお子さまについて）

④保育希望の日時（何日の何時から何時まで保育を希望するか）

⑤託児室利用についての連絡先：メールアドレスと電話番号（当日、緊急連絡が可能な番号）

⑥アレルギー等の特別な配慮について

※定員になった場合、締め切らせて頂くことがありますので、お早めにお申し込みください。

申し込み先

大会実行委員会事務局メールアドレス ksa69.matsuyama（アットマーク）gmail.com（メールを送る場合は、アットマークを@にしてください）

メールのタイトルは、「第 69 回関西社会学会大会 託児室予約」と記入してください。

その他

※お預かり中におやつや飲み物が必要な場合は、保護者さまの方でご用意ください。託児室にはポットが備え付けられています。

※お昼寝が必要なお子さまには、バスタオルをご持参ください。

※ご利用料金のお支払いは、学会受付にて現金でお支払ください。託児室の受付は、学会参加費の受付の隣に設置する予定です。

※当日のキャンセルにはキャンセル料（全額）が発生します。

第1日 6月2日(土)

◆受付開始 13:30 (8号館4階)

研究報告Ⅰ 6月2日土曜日午後 14:00~16:30

- | | | |
|--|--------------|--------------------|
| 1. 理論(1) | (8号館 855 教室) | 司会: 上村隆広(大阪府立大学) |
| 1. ルーマンと構築主義論争
—セカンド・オーダーの観察の理論からの示唆— | | 井口暁 京都大学 |
| 2. 「同時的なものの非同時性」
—社会システム理論における同時性の問題について— | | 梅村麦生 日本学術振興会 |
| 3. フーコーにおける安全と規律・訓練
—空間概念を手がかりに— | | 中村健太 関西学院大学 |
| 2. 文化・社会意識(1) | (8号館 843 教室) | 司会: 山中千恵(京都産業大学) |
| 1. エージェンシーの諸相についての考察
—清酒製造現場でのフィールドワークから— | | 岩谷洋史 神戸大学 |
| 2. 相互行為場面における「適切さ」の現代的特徴
—ビジネス雑誌に表象される場面に着目して— | | 谷原史 立命館大学 |
| 3. ポピュラー文化コンテンツのトランスナショナルな流通と国籍性
—K-Popと「韓国らしさ」— | | 喜多満里花 大阪市立大学 |
| 4. 文化変容に関する研究の再考と新たな方向性 | | 有國明弘 大阪市立大学 |
| 3. 社会史 | (8号館 854 教室) | 司会: 三浦耕吉郎(関西学院大学) |
| 1. コメ本位社会の社会分化
—近世前中期大坂の米市場— | | 碓井崧 金沢大学 |
| 2. 大衆とつくるラジオ番組
—占領期における演芸番組「上方演芸会」を事例に— | | 後藤美緒 日本大学 |
| 3. 戦間期における<栄養>の受容
—栄養学者の佐伯矩と都市中間層の女性に注目して— | | 巽美奈子 立命館大学 |
| 4. 家族・ジェンダー | (8号館 841 教室) | 司会: 赤枝香奈子(筑紫女学園大学) |
| 1. 未就学児を持つ共働き家庭の役割分担
—時間軸で見る家事育児分担の変化— | | 孫詩彧 北海道大学 |
| 2. 男性多数の集団における女性の親密関係
—ホモソーシャルリティとサークルクラッシュの比較から— | | 堀内翔平 京都大学 |
| 3. LGBT 差別による社会的損失
—自殺・うつによる社会的損失推計の試み— | | 岩本健良 金沢大学 |
| 4. 子ども間で生じる身体的暴力と「男子性」
—児童養護施設における参与観察から— | | 三品拓人 大阪大学 |

5. エスニシティ・地域研究 (8号館 842 教室) 司会：二階堂裕子 (ノートルダム清心女子大学)

1. 在日朝鮮人の居住基盤の変化と朝鮮学校
—A市T朝鮮学校児童の居住地分析に基づいて— 金汝卿 同志社大学
2. 現代日本の労働市場における外国人労働者について
—現状の問題点の整理— 大久保元正 聖カタリナ大学
3. 地方社会における外国人住民に対する医療・福祉
—医療福祉機関の多言語対応・日本語支援を中心に— 田村周一 聖カタリナ大学

6. 医療・障害 (1) (8号館 853 教室) 司会：種田博之 (産業医科大学)

1. 個別性のある看護実践を目指して
—情報収集と医療者間の協働を視点として— 永山博美 立命館大学
2. EBMの社会学・序説
中川輝彦 熊本大学
3. 薬害アーカイブズの社会的機能に関する考察
—薬害被害者団体資料の整理・調査をもとに— 藤吉圭二 追手門学院大学

◆若手企画部会 (8号館 844 教室) 14:00~16:30

テーマ：〈語り〉に着目した調査研究の課題を考える——〈病いの語り〉研究の検討を中心に

コーディネーター：志水洋人 (龍谷大学)

1. 「語りの特権化」という批判の現代的含意
—英米における論争の検討から— 志水洋人 龍谷大学
2. 看護学と社会学の間を行き来して語りを聴くこと
—研究過程での葛藤と役割期待— 心光世津子 武庫川女子大学
3. 「自閉症者」手記の流通と語りの類型化
—バリエーション豊かな語りを捉えるために— 高木美歩 立命館大学
4. 化学物質過敏症の「正統性」に関する議論の再検討
—数種類の「語り」から— 景山千愛 京都大学

討論者 山中浩司 大阪大学

◆総会 16:45~17:30 (8号館 845 教室)

◆懇親会 18:00~20:00 (カルフル1階生協食堂)

第2日 6月3日(日)

◆受付開始 9:00 (8号館4階)

研究報告Ⅱ 6月3日日曜日午前 9:30~12:00

7. 理論(2) (8号館855教室) 司会: 名部圭一(桃山学院大学)

1. 規範理論をめぐる日本社会学の今日的動向
—〈社会構想の社会学〉は可能か— 徳宮俊貴 神戸大学
2. 1930年代における日本社会学の三つの潮流
—「社会的なもの」を中心として— 寺前晏治 立命館大学
3. フランス第三共和政下の政治的対立とデュルケム
—ナショナリズム・宗教・道徳的個人主義— 野々村元希 同志社大学
4. 「アート」に何を見るか?
—実態調査が示すアートとエンパワメントの関係性— 兼子一 神戸医療福祉大学

8. 文化・社会意識(2) (8号館843教室) 司会: 金菱清(東北学院大学)

1. 西欧キリスト教圏におけるSGIの受容と発展
—リーダーシップ、およびコンテンツとパッケージに着目して— 秋庭裕 大阪府立大学
2. SGIにおける入信過程の図式化
—御利益から利他性へ— 〇川端亮 大阪大学
稲場圭信 大阪大学
3. 広島はヒロシマにどのように向き合ってきたのか
—ヒロシマに関する行事と「生者—死者」の関係性について— 渡壁晃 関西学院大学
4. 浄土真宗における寺院の経済状況と護持・運営の課題
—浄土真宗本願寺派 第10回宗勢基本調査のデータ分析から— 吉田秀和 龍谷大学

9. 教育 (8号館854教室) 司会: 都村間人(神戸学院大学)

1. 日本に在住している中国ニューカマーの子ども教育
張 偉霞 神戸大学
2. アクティブ・ラーニングが卒業時点の就業に及ぼす影響について 〇長光太志 佛教大学
—大学におけるアクティブ・ラーニングの影響に関する研究(1)— 大束貢生 佛教大学
全炳昊 佛教大学
牧野芳子 佛教大学
徳井公樹 佛教大学
大窪善人 佛教大学
3. 「弱い他者」を媒介とした討議の可能性 〇大窪善人 佛教大学
—大学におけるアクティブ・ラーニングの影響に関する研究(2)— 大束貢生 佛教大学
全炳昊 佛教大学
牧野芳子 佛教大学
徳井公樹 佛教大学
長光太志 佛教大学

- 10. 地域社会** (8号館 842 教室) 司会：杉本久未子
1. 災害時における市民エージェント間の連携
—熊本地震後の創発ネットワーク組織を事例に— 王文潔 大阪大学
 2. 人口減少時代の地域再生
—島根県における都市からの移住者の役割— 田中輝美 大阪大学
 3. A 隣保館による多文化共生の取組み
—「勉強会」と「ふれあい祭り」の事例から— 魁生由美子 愛媛大学
 4. 被災地住民と地域活動
—福島市データを用いて— 豊島慎一郎 大分大学
- 11. 調査研究法** (8号館 852 教室) 司会：阪口祐介 (桃山学院大学)
1. ヴァルネラビリティ分析による階層ハザードマップの作成 石田淳 関西学院大学
 2. トラブルから争いへ
—民事紛争のイベントヒストリー分析— 鹿又伸夫 慶應義塾大学
 3. 若年世代の社会意識の日米比較調査
—調査の実施過程と試行的分析— 轟亮 金沢大学
- 12. 伝統** (8号館 841 教室) 司会：有本尚央 (甲南女子大学)
1. 神輿会はなぜ「神」を語るのか
—台東区 A 神輿会を事例として— 三隅貴史 関西学院大学
 2. 「観光的平和統一運行計画」と祭礼の変遷
—「新居浜太鼓祭り」を事例に— 倉田健太 総合研究大学院大学
 3. 伝統の継承・改変にみる集落とエスニシティの帰属意識
—バタヴィア先住民「ブタウィ」の武術実践を事例として— 中村昇平 日本学術振興会
 4. 地方都市における芸者の活動空間の多様性
—愛媛県松山市の芸者の実践を事例に— 谷岡優子 関西学院大学
- 13. 医療・障害 (2)** (8号館 853 教室) 司会：檜田美雄 (神戸市看護大学)
1. 若年難病患者の社会性の獲得 笠井敬太 大阪大学
 2. がん経験者は誰に語り、誰に語らないのか
—当事者へのインタビューの分析を通して— 阪本浩太 京都大学
 3. 双極性障害に関する疾患言説と「病いの物語」の齟齬
—セルフレポートの分析を通じて— 松元圭 関西大学

◆一般研究報告 B (ポスター報告) (8号館 851 教室) 11:30~13:00

1. 戦後日本社会はいかに変容したか(1)
—学生による研究活動の成果から— 荻野昌弘 関西学院大学
小田二元子 関西学院大学
藤井亮佑 関西学院大学
2. 医療・福祉業で働く女性のキャリア形成過程とビューティケア (化粧、頭髮)
乙部由子 名古屋工業大学

◆遠藤一郎氏によるアートパフォーマンス（8号館4階フロアおよび844教室）

12:00～12:50

遠藤一郎氏紹介：1979年 静岡県生まれ。未来芸術家。

車体に大きく「未来へ」と描かれた、各地で出会った人々がそのまわりに夢を書いていく『未来へ号』で車上生活をしながら全国各地を走り、「GO FOR FUTURE」のメッセージを発信し続ける。アートイベントで展示やパフォーマンスを行うほか、2012年から、日本列島にメッセージを描くプロジェクト「RAINBOW JAPAN」を立ち上げ、日本列島を縦断、日本全体を勇気づけるメッセージを描く。

主な参加イベントに「別府現代芸術フェスティバル 2009 混浴温泉世界」わくわく混浴アパートメント、「TWIST and SHOUT Contemporary Art from Japan」BACC（バンコク）、「愛と平和と未来のために」（水戸芸術館）、「六本木アートナイト 2012」（六本木ヒルズアリーナ）ほか多数。2008年から『美術手帖』（美術出版社）にて「愛と平和と未来のために」連載（全100回）。

◆シンポジウム（8号館845教室）

13:00～16:00

シンポジウム「アートと社会／地域の現在——瀬戸内から考える」

司会 今井信雄（関西学院大学）
藤井和佐（岡山大学）

登壇者および報告タイトル

1. アートはなぜ地域に向かうのか—“社会化する芸術”の現場から—

吉澤弥生 共立女子大学

2. 地域がアートに出会う時—直島における展開過程の検討—

宮本結佳 滋賀大学

3. アートと地域の“幸福な”関係とは？—G・ジンメル「額縁」「とって」論を手がかりとして—

徳田 剛 大谷大学

討論者

宮原浩二郎 関西学院大学
近森 高明 慶應義塾大学

学会大会会場の松山大学文京キャンパス構内案内図



[松山大学文京キャンパスまでのアクセス]

松山空港他からのアクセスについては以下のリンクを参照してください。

<https://www.matsuyama-u.ac.jp/guide/campus/bunkyo/>

松山空港は、全日空・日本航空の他に、LCCのJetstarとPeachが就航しています。特に関西（伊丹空港・関西空港）と関東（羽田空港・成田空港）方面は、かなり頻繁に便があります。

福岡 - 松山便の他に、一日一往復ですが、沖縄と北海道直通便も設定されています。

[会員控室のご案内]

8号館5階850教室に会員控室を設けております。コーヒーと麦茶をセルフサービスで提供しております。

[大会期間中の昼食のご案内]

7号館に隣接する樋又キャンパス一階レストラン「ル・ルパ」が土日両日とも営業しております。また、周辺に複数のコンビニエンスストアがあります。

※8号館西隣の学生会館前に自動販売機があります。また、喫煙は所定の場所（8号館裏自転車置き場）にてお願いします。

学会大会会場 8号館 3階～5階

受付 4階ホール

6月2日(土)

12:30～13:30	理事会	860教室
13:30～	受付開始	4階ホール
14:00～16:30	研究報告I	841・842・843 853・854・855
14:00～16:30	若手企画部会	844教室
16:45～17:30	総会	845教室
18:00～20:00	懇親会	カルフル1階

6月3日(日)

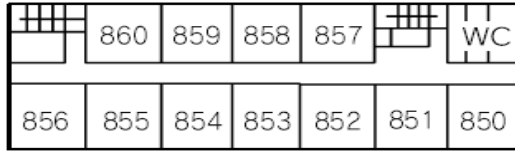
9:00～	受付開始	4階ホール
9:30～12:00	研究報告II	841・842・843 852・853・854・855
11:30～13:00	ポスター報告	851教室
12:00～12:50	アートパフォーマンス	4階ホール及び844教室
13:00～16:00	シンポジウム	845教室

- ・シンポジウム打合せ 857教室
- ・大会奨励賞判定会議 858教室
- ・若手企画打合せ 856教室
- ・ソシオロジ同人総会 859教室
- ・書籍販売 4階ホール奥

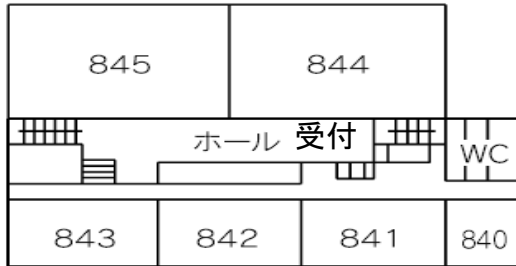
- ※大会本部 4階 840教室
- ※クローク 4階 840教室
- ※会員控室 5階 850教室
- ※託児室 3階 西側学生ロビー

★会場内のWi-Fi

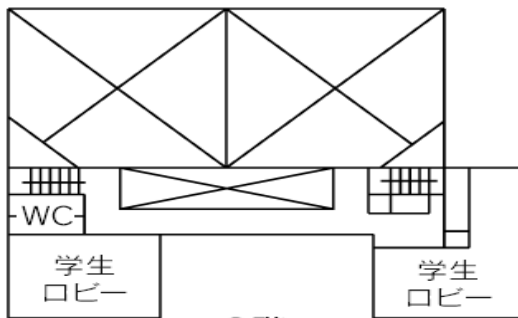
8号館内で無料公衆無線LANサービス「えひめFreeWi-Fi」が利用できます。Wi-Fiネットワーク一覧からSSID「Ehime_Free_Wi-Fi」を選択し、出てきた指示にしたがって接続してください。



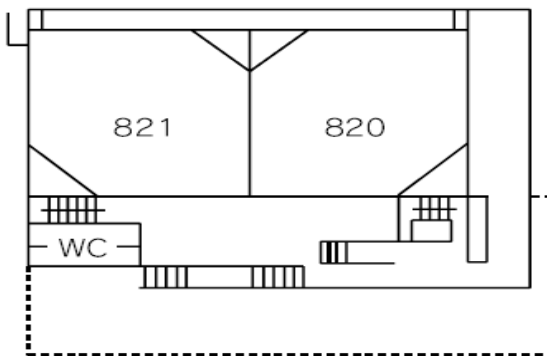
5階



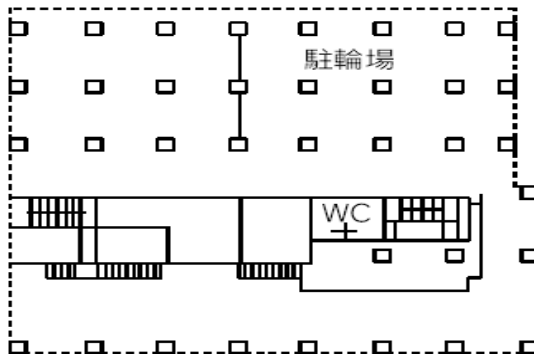
4階



3階



2階



1階

8号館